

37

## 杉山流鍼治御用学問所の由来を記した『杉山先生御伝記』の調査研究

大浦 宏勝, 市川 友理

北里大学東洋医学総合研究所 医史学研究部

### 【緒言】

杉山流鍼治学問所に関する記載は、これまで浅田宗伯著『皇国名医伝』杉山和一の章中に、「命じて宅に就き館を設け、鍼治講習之所と為し諸生をして就き学ばしむ」とあるものを元に、さまざまな議論がなされてきた。我々は平成20年の医史学会にて新資料『杉山流家譜』（卷子本）の調査を通じて、初代杉山総検校の死後、2代三島総検校から3代島浦総検校に移行した経緯、および杉山流鍼治学問所における鍼術の伝授教育方式について報告した。今回、新たに杉山・三島・島浦の3代にわたる伝記、および鍼治学問所の宝暦より江戸末期に至る経緯を記した『杉山先生御伝記』が発見されたゆえ、内容を報告する。

### 【方法】

米沢市立図書館にて副主幹の青木氏が、『杉山先生御伝記』なる古文書を発見した。これは杉山真伝流の和田家第4代当主和田正定が記録したものを、第6代和田正長が補記して成った書である。昨年我々は知人杉浦氏による全文の解説作業を手伝い、またその内容の裏付けのため米沢現地に赴き調査研究を行った。米沢は上杉家代々が幕末まで治めていた地であり、3代目島浦総検校の出身地である。郷土資料および上杉家伝来の古文書類を調査し、島浦検校と上杉家との関わりを調べた。また、杉山検校と江戸島との関係については、岩本院文書類を調査し裏付けた。

### 【調査結果】

第一に、杉山検校について、『御伝記』は杉山の出自を「奥州信夫郡福島城〔城代は上杉家の長臣・本庄出羽守光長〕の与力、杉山慶次の長男」とする。従来の「伊勢国津の生まれ、杉山権右衛門重政の長男」説とは異なる。江戸初期、福島のは地は上杉家の重臣「本庄出羽充長」の領地であることは突き止めたが、その与力杉山慶次の存在は不明で、福島説の真偽も不明であった。重要なのは、入江豊明に師事し末期に立ち会った経緯であり、他の資料には無い。また、杉山が將軍綱吉付の侍医となって以降の江戸島との関係については、下の坊への御朱印地拝領の件、下の宮造営の件、没後の三島検校による墓地および宮再建・杉山廟所新造の件に関し、岩本院文書類により裏付けられた。三島検校の出自に関し定かな説は無かったが、『御伝記』は「丹後宮津の産れ」とする。

第二に、島浦検校について、『御伝記』は「出羽国長井の庄・置賜郡、松ヶ崎城西遠山村の郷土、和田藤四郎橘の正安の長男」とし、その後上杉家5代綱憲近侍の鍼医となり、3代目総検校となるまでの経緯を詳述する。その登場人物・年代については、『上杉家御年譜』にて確認できた。『御伝記』はその後、宝暦年間に「所々に鍼治学問所出張稽古場（出張所）」を設けたこと、島浦による下の宮修復、および隠居後の和田家杉山真伝流鍼治学問所と惣録との引き分かれの経緯を記している。

第三に、『御伝記』により、杉山検校が遺した書籍類の名、綱吉公から賜った「黄金の弁財天像」の由緒が判明した。これにより、杉山は『療治大概書』の元本として砭寿軒圭庵著『鍼灸大和文』を所持していたこと、入江豊明より『入江中務経絡之書』などの「往古歴代の鍼術秘書」を伝授されていたことなどが分かった。

### 【まとめ】

米沢市立図書館所蔵の『杉山先生御伝記』は、関東総検校3代にわたる行跡、および杉山流鍼治学問所の由来と変遷を知る上で、貴重な資料である。

※尚、今回の調査研究は、2011年度武田科学振興財団杏雨書屋研究奨励の援助で行われました。